

(社)地盤工学会関東支部



JGS Kanto

Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

地盤工学の展開

関東支部幹事長 東畑 郁生

公共投資の縮減，少子化，理科離れなどが相まって，地盤工学会の会員数は減り続け，出版物も売れ行きが不振，という厳しい事態に至っております。学会の理事会でも毎回この話題が取り上げられ，理事一同の奮起が要求されております。その中で今後の活動方向を示す学会中長期アクションプログラムが決定され，進むべき道筋が合意されました。本稿では，この中長期計画から関東支部に係る事項を拾い出し，今後の支部活動のあり方について御説明を致したい，と思っております。



まず，学術技術の進歩への貢献，ということが謳われております。実はこれは学会が従来から活発に行動して来たことです。学会設立の時のいきさつから，設計指針の策定のような作業こそ不活発であったものの，調査法の制定，解説書，技術書，論文集などが数多く出版され，最近まではそれが学会の収益源ともなっていました。

(会員)技術者の資質向上は，近年社会的な要請の高まった事項です。これに関しては従来から講習会も多く開かれていましたが，システムティックではなく単発的な面が無きにしもあらずで，改善が必要です。他方，継続教育への努力を評価するために G-CPD ポイントシステムが作られていますが，これは他学会のポイントとも連動しており使いやすく，また安価なものです。今後の地盤工学会の存在意義を示す一つの柱でありましょう。

社会への貢献の中では，非学会員とりわけ市民への貢献度が意識されております。関東支部ではこの方面が地盤工学会の活動の弱点であった，と認識しており，特に力を入れております。たとえば，地方自治体の職員研修を担当したり，今年は東京都文京区の市民大学に連続五回の講師も派遣いたします。さらに，中高生への地盤工学紹介の講演会を実行する他，工業高校における土質実験授業の支援など，やるべき事柄は数多くあります。

災害の調査と復旧，防災への支援も重要な役割です。俗に災害ツーリズムという批判があり，災害地に入り込んで人々の神経を逆なでする行為は慎まなければなりません。逆に非常の事態を前にして何も行動しないことは，怠慢以外の何ものでもありません。国民全体に向けて被害の原因や教訓を説明し，また過去の経験を昇華させて技術のあり方への提案に至ることが重要です。関東支部ではこのような活動のために，各県毎に一人の担当者を決め，各県代表が連合して調査体制の設営を行ないます。

次に地盤工学の今後のあり方について，一言申し述べたいと思います。世の中の有り様が激しく変わる中，地盤工学も従来の世界に安住しては未来がありません。これまで培った能力を他分野にも展開し，そこで新しい問題を解決して，存在意義を主張したいものです。関東地区の地盤データベースの構築プロジェクトを受注して活動が始まったのが，その例です。また現在計画しているのは，2016年東京オリンピック招致活動への参画があります。御承知のようにオリンピック会場には東京の臨海部が想定されており，ここには地盤に限らず環境の面でも様々な問題が存在しています。これらの問題を，二十一世紀の大都市のあり方を予言するような形で解決する企画を提案し，外国のライバル都市を圧倒することに，地盤工学会(関東支部)が積極的な役割を演じたい，と願っています。

最後になりましたが，学会の抱える大きな問題に，若手会員の激減があります。このことが出版物の売れ行き不振の一つの原因にもなっています。学生会員の8割が卒業の途端に退会して縁が切れてしまう，というデータもあります。この状況を打開するために関東支部では，28才以下の若手会員の会費減免システムを提案しています。それによると，若手は年間2800円の会費で，全国版のG-CPDシステ

ムと所属支部限りの学会活動に参加できます。一方で全国版の研究発表会や土と基礎の購読を望む方は、これまで通り正会員の会費をフルに支払ってください。この提案では、地盤工学会は何をおいてもまず入会すべき第一の学会ではない、他に土木学会や建築学会、農業土木学会があり、就職したばかりの若手に他学会とあわせ会費を二ヶ所に払わせるのは酷である、と考えております。そして28才になって仕事の上でも地盤工学が必要であれば、改めてフルの正会員になっていただきたい、と考えております。転勤の多い若手の人たちに不利にならないよう、この提案は全国の他支部とも歩調をそろえて実施しなければなりません。そこで現在各方面にご検討と協力をお願いしているところです。

このように、さまざまな新しいチャレンジを展開している関東支部ですので、会員の皆様にはぜひ、積極的な御支援や御助言を賜りたい、と願っております。

地盤工学会ジャワ島中部地震災害調査団による現地被災調査結果報告会

プロジェクト対応グループ リーダー幹事
古関 潤一（東京大学）

標記の報告会が平成18年8月10日(木)18:00~19:30にJGS会館で開催された。安田進・地盤工学会副会長(災害担当)の司会のもとで以下の内容で調査団メンバーから報告がなされたのち、27名の出席者との間で質疑応答が行われた。なお、調査結果については、報告書の暫定版が地盤工学会のホームページに掲載され、概要が9月号の「土と基礎」誌上に掲載されているので、参照されたい。

1. 全体概要：古関潤一（東京大学）
2. 低地の被害：吉嶺充俊（首都大学東京）
3. 貫入試験結果と海岸斜面の被害：清田隆（東京大学）
4. 中山間地の被害：後藤聡（山梨大学）、原忠（中央大学）



報告会の状況

「第7回技術交流会」開催

プロジェクト対応グループ リーダー幹事
小島 謙一（(財)鉄道総合技術研究所）

第7回技術交流会が、平成18年10月17日(火)15:00~17:00(懇親会17:00~18:00)に地盤工学会大会議室にて67名もの非常に大勢の参加者のもと開催されました。今回の技術交流会は、JR東日本の渡邊課長と清水課長に基礎や土構造およびトンネルに関するJR東日本における技術開発等について話題提供していただきました。現場での施工の状況などを踏まえた非常に分かり易く、また興味深い内容の話題であり、交流会時のみならず懇親会時においても活発な交流が行われました。特に気泡モルタルやEPS、補強土など比較的新しい工法や地下水再利用の工法などについて質疑が交わされ、これらの分野の関心の高さを感じることができました。

提供していただいた話題の中には、災害復旧時の話や地下水位対策に関するものがありました。近年においては降雨や地震などが要因となる災害が多数



技術交流会の状況

発生しており、「土」を扱っている我々としては非常に大きな課題となっております。また都市部においては環境問題が非常に重要視されており、その1つとして地下水に関する問題があります。地下水位上昇に関する対策の話や地下水を再度利用した周辺への環境保全事業については高い関心が寄せられました。これらの課題は鉄道に限った問題ではなく、道路やその他の事業に対しても境界をこえて、参考となるものが非常に多くあると考えられます。今後とも幅広く、各方面の方に話題提供をしていただき、異業種の情報交換を行うことにより、会員における業務等に反映できる会になれば幸いであると考えております。

最後になりましたが、お忙しい中、大変貴重な話題提供をして頂きましたJR東日本構造技術センター渡邊課長、清水課長に深く御礼申し上げます。



J R東日本構造技術センターの講演



懇親会の様子

横浜市職員研修に協力

神奈川県グループ リーダー幹事
田中 洋輔（東亜建設工業（株））

2006年7月18日（火）に横浜市職員研修が実施されました。研修タイトルは「災害に強い街：横浜を目指して」です。横浜市行政運営調整局人材組織部人材開発課より研修の協力依頼があり、昨年度に引き続いて開催が実現しました。神奈川県グループは、研修内容の企画・構成、講師派遣を協力しました。都市基盤整備に関わる職員を中心に50名弱の方が受講されました。

研修では、藤間功司先生（防衛大学校）、安田進先生（東京電機大学）、長島一郎氏（大成建設（株）技術センター）、秦康範氏（防災科学技術研究所）の4名の講師の方々にご講演いただきました。

藤間先生は、「津波・高潮災害の被害の様相と復旧」について、インド洋津波やハリケーンカトリナの映像を交えて説明されました。安田先生は、「地震による被害の様相と対策」、および「首都圏直下地震に対する提言」について、新潟地震の液状化のビデオ等を交え、講演されました。長島氏は、「土木・建築の耐震設計、事前対策技術」について、耐震設計の変遷や最新の免震技術、リアルタイム地震防災について説明されました。秦氏は、「日本で発生した災害に対する事後対応」について、実際に発生した災害課題や事後対応の訓練・研修について詳細について説明されました。各講義とも、写真やビデオを交え、わかりやすくかつ詳細な説明があり、大変充実した内容でした。

研修終了後に、研修内容に関するアンケートが行われ、研修に対する要望等が寄せられました。行政に携わる方々から直接の声を聞くことができ、今後の活動に向けて参考になる意見を聞くことが出来ま



研修の状況

した。今後も、このような研修協力を横浜市に限らず、他の自治体でも開催できるよう活動したいと考えています。

講演会「テルツァーギの知られざる素顔と土質力学への想い」

群馬県グループ 幹事
土倉 泰（前橋工科大学）

群馬県グループでは、平成 18 年 10 月 12 日 18:00～19:30 に群馬建設会館にて、「土質力学の父 カール・テルツァーギの生涯」の翻訳者である東洋大学名誉教授の赤木俊允先生をお迎えして、標記の講演会を開催いたしました。コンサルタント勤務者、学生、県職員を中心とした 65 名の聴講者は、テルツァーギが、当時は経験則とおまじない程度でしかなかった土の技術に対し、地質学をベースに科学的な手法と力学の諸原理を導入して、土質力学を創造するに至った経緯に関する赤木先生の興味深いお話に堪能しました。



赤木先生の楽しい講演

女性関係やアインシュタインとの対比も含めた愉快なお話は尽きることがなく、あっという間に時間は過ぎていきました。ダム現場でのアルバイト経験のある学生は、アースダムにおける仕事の話もあって、「面白くて集中できた」ことを報告してくれました。講演会の最後に先生がご披露くださった、テルツァーギと夫人との旅行の映像等も印象に残ります。

各会員の仕事や勉強の上で直接参考になるお話でもありましたので、講演会後の参加者の感想から察するところ刺激を受けられた方が少なくなかったようです。赤城山を眺めながら、赤木先生の楽しい講演会を思い出しています。

「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会」 初年度活動報告会

会員サービスグループ 幹事
伊東 広敏（日本技術開発(株)）

関東支部では「地域と実務の会員に密着したきめ細かい活動」を目標に様々な活動を行っております。その一環として活動されている研究グループの「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会」の初年度活動報告会が平成 18 年 10 月 4 日（水）に JGS 会館で 30 名の参加者を集めて実施されましたので報告いたします。

「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会」は、2000 年に噴火した三宅島火山を対象に、災害の実態、対策の状況、復興の様子等を調査して、将来関東地方でも発生するかもしれない火山災害に対して、地盤工学的な立場から有効な対策、対応方法を研究することを目的に、関東支部の研究委員会として平成 17 年 3 月



報告会の状況

に設立されました。研究委員会は土質・地質の専門家に加え、火山、火山ガス、砂防、植物生態、防災工事など幅広い分野の専門家から構成されています。

報告会では、清水委員長の開会挨拶に続いて、後藤委員より「委員会設立の初年度の活動」と題して設立経緯と趣意が紹介されました。その後、各委員から貴重な現場写真を多く用いた現地調査報告が行われ、降下火山灰、降礫、森林被害、火山ガスによる健康被害など、火山災害の深刻さ、重大さを改めて思い知らされました。また、報告の後では、多くの方が活発な質疑・委員会に対する提案などが行われました。

最後になりましたが、今回の報告会は、「地盤工学的立場から見た三宅島火山災害に関する研究委員会」と会員サービスグループが共同で企画した報告会であり、今後も既成の枠にとらわれない自由な試みを企画していきたいと思えます。

プログラム

| | |
|-------|-------------------------|
| 清水委員長 | あいさつ |
| 後藤委員 | 委員会設立の初年度の活動 |
| 千葉委員 | 三宅島 2000 年噴火の経緯と火山災害 |
| 千葉委員 | 三宅島現地調査報告(1)細粒火山灰 |
| 沖津委員 | 三宅島現地調査報告(2)植生の調査報告 |
| 内田委員 | 三宅島現地調査報告(3)火山ガスのモニタリング |
| 大里委員 | 今年度の調査計画 モニタリング計画 |

「18 年度東京都防災展」への講師派遣

企画総務グループ 幹事

高橋 暁 ((社) 全国地質調査業協会連合会)

東京都は「防災週間」(8月30日~9月5日)の関連行事として、都民の防災意識の向上と防災知識の普及・啓発を図ることを目的に、「18 年度東京都防災展」を下記のとおり開催し、地盤工学会関東支部では、防災展の協力参加として防災講座への講師派遣を実施しました。

「18 年度東京都防災展」開催概要

1. テーマ 首都直下地震に備えて
2. 期 日 8月22日(火)~25日(金) 4日間
3. 場 所 新宿駅西口イベント広場
4. 主な内容
 - ・家庭における防災対策(耐震診断相談、自宅周辺の地盤検索など)
 - ・外出時の防災対策(帰宅困難者対策、エレベータの地震対策など)
 - ・パネル展示(首都直下地震による被害想定、地震災害記録写真など)
 - ・展示および販売(防災用品および防災関連書籍)
 - ・防災講座等(防災関連講演、起震車体験など)
5. 協力団体 (株)NTTドコモ・NTT東日本(株)・関東地質調査業協会・(独)建築研究所・KDDI(株)・東京ガス(株)・(社)東京建設業協会・東京消防庁・東京電力(株)・東京都葛飾福祉工場・(社)東京都建築士事務所協会・(社)東京都地質調査業協会・(財)東京都道路整備保全公社・(独)防災科学技術研究所 ほか

会場は、多くの方が行き交う新宿駅近くの地下コンコース内に設けられており、地の利もあってか、サラリーマンを始め一般市民の方など多くの方が来場されました。来場者は熱心に展示ブースを見学しており、自宅周辺地盤を診断するブースでは順番待ちができるほどの盛況振りでした。

地盤工学会関東支部は、昨年度に開催した同防災展に初めて参加し、講師派遣を実施しました。今年はその2回目となりますが、講師は昨年度と同じく、(独)建築研究所 国際地震工学センター(上席研究員 田村昌仁博士)に講義をお願いしました。「住宅・宅地地盤の地震被害および地震対策」のタイトルにて、被害を受けやすい住宅や地震対策などについて、24日午後1時から約1時間にわたって説明をいただきました。田村先生の熱弁と事例写真紹介を織り交ぜるなど市民向けの分かりやすい解説もあり、講義中は立ち見が出るほどの好評なものでした。

今年の防災展を振り返りますと、来場者は熱心に聴講し、または質問するなど、市民の地盤に対する関心の高さを窺い知ることが出来ました。今後、このような防災展を通じ、地盤の安全性などについて

市民に説明していく事は、地盤技術者の責務であり、また、その意義は大きいと言えるでしょう。
最後になりますが、講演を快くお引き受けいただきました田村先生には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

新技術・新工法に関する平成 18 年度第 1 回技術相談の実施報告

プロジェクト対応グループ リーダー幹事
古関 潤一（東京大学）

プロジェクト対応グループでは、特別会員を対象とした新技術・新工法の評価と普及方策・開発方針に関する平成 18 年度第 1 回目の技術相談を 10 月 17 日（火）に実施しました。関東支部 HP と特別・一般会員向けメーリングリストで実施案内をお知らせした結果、応募されたのは以下の 1 件でした。

掘削幅縮小技術「ゼロスペース工法」(東京電力(株)、(株)関電工)

事前に提出していただいた技術の概要・自己評価と普及活動の経緯、論文発表・特許の有無等の資料に加えて、当日は約 10 分のプレゼンテーションを担当者の方に行っていただき、その後 20 分程度、評価や普及方策について出席者間で自由討論しました。関東支部からはプロジェクト対応グループのメンバー（松本・小島・大槻・古本・古関）が出席しました。

この技術相談は、すでに公開されている新技術・新工法を対象に実施するもので、あくまでもボランティアベースの「相談」です。お墨付きとして使えるような「審査」・「評定」ではありません。今年度中に第 2 回も実施する予定ですので奮ってご応募ください。募集の詳細については関東支部 HP とメーリングリストで別途お知らせいたします。

【行事報告】

特別講演「道路計画の構想段階における PI 制度ならびにその運用」：7 月 7 日，JGS 会館
ジャワ中部地震調査報告会：8 月 10 日，JGS 会館
東京都防災展：8 月 22～25 日，新宿駅西口
三宅島火山災害の中間報告：10 月 4 日，JGS 会館
講演会「テルツァーギの知られざる素顔と土質力学への想い」：10 月 12 日，群馬建設会館
新技術・新工法に関する平成 18 年度第 1 回技術相談：10 月 17 日，JGS 会館
第 7 回技術交流会：10 月 17 日，JGS 会館
埼玉県グループ講演会：10 月 18 日，さいたま市
山梨県 G 大月第一トンネル見学会：10 月 19 日，大月市
継続教育システムに関する関東支部説明会：10 月 19 日，JGS 会館
第 3 回地盤工学会栃木グループ講習会「地盤工学を学ぶ」：10 月 25 日，小山市文化センター
特別講演会「地下鉄 13 号線の建設について」：10 月 30 日，JGS 会館

【行事予定】

土木構造物の性能設計の動向に関する講演会：11 月 2 日，JGS 会館
第 3 回関東支部研究発表会（Geo-Kanto2006）：11 月 9 日，10 日，関東学院大学関内メディアセンター
第 37 回アフター5 談話会「世界の地形と民俗学」：11 月 17 日，JGS 会館
“彩の国”市民科学オープンフォーラム-異常気象と都市洪水水害から地域を守る-：11 月 21 日，さいたま市
独立行政法人港湾空港技術研究所の研究施設見学会：11 月 28 日，横須賀市
第 1 回学校対抗ソイルタワーコンテスト：12 月 2 日，船橋市
茨城県研究所めぐり（独立行政法人産業技術総合研究所）：12 月 8 日，つくば市
財団法人電力中央研究所見学会：12 月 19 日，我孫子市

編集後記

本紙の発行も 10 回目を迎えました。これまでも様々な行事や支部活動の状況を紹介してきましたが、本紙で紹介しきれないほど多くのサービスに取組んでおります。会員の方も非会員の方も是非ご利用下さい。
(樋口佳意：企画総務グループ幹事)

発行 社団法人 地盤工学会関東支部
〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 TEL03-3946-8670 FAX03-3946-8678
E-mail : jgskantou@jiban.or.jp URL : <http://www.jiban.or.jp/kantou/index.html>